

リフレッシュオープンにむけて

植 田 雅 浩

当館は、開設以来30余年が経ち大規模な改修工事を行うことになり、昨年の9月から1年余り休館しています。この改修工事では、施設の安全性やアメニティーの向上に加え、展示の一部を新しくすることができました。

昨年は、当館にとって追い風となったできごとが2つありました。一つは、休館前の5月に長瀨と当館がミシュラン・グリーンガイド・ジャポンの改訂第2版に掲載されたことです。二つ目は、休館直後の9月に長瀨を含む秩父地域が日本ジオパークに認定されたことです。

当館や秩父地域の注目度がアップしたこのチャンスを活かし、博物館としての魅力を高めるために新たに始めた4つの取り組みについて紹介します。

(1) ジオパーク秩父の支援

秩父郡市が協力して取り組んできた活動が実を結び、秩父地域が日本ジオパークに認定されました。当館は、その活動を支援する拠点施設でもあります。そこでリフレッシュオープンに先がけ、ジオパーク秩父を支援するための取り組みを始めました。新たに2種類のインフォメーション



ジオパークの出張展示（秩父市山里自然館）

ボックスとよぶ展示具を製作し、秩父地域の4か所で展示を行ってきました。

当館の展示室の一角に、ジオパークの視点で秩父地域の魅力を紹介するコーナーをつくりました。また、リフレッシュオープンにあわせて企画展「ちょっくら よってがっせえージオパーク秩父へのいざないー」を開催します。これは、「ジオエコロジー」「自然と人々のくらしの関わり」をキーワードとして新しい視点で展示しました。タイトルにも使った秩父弁に触れる体験コーナーなどもあり、楽しくジオパーク秩父を知り、活用するための展示です。

(2) 観察園「カエデの森」の整備

当館の向かいにある月の石もみじ公園は、毎年大勢の皆さんが訪れる紅葉の名所です。このカエデは、40年ほど前に当館の前身である秩父自然科学博物館が働きかけて植栽したものです。このように当館にもなじみ深いカエデの仲間ですが、日本には27種あるとされています。そして県内には21種が生育します。本県は、カエデが豊富な県ということになります。

そこで昨年度、今までの芝生広場を造成して、カエデの観察園をつくりました。植栽したカエデは、県内に自生していた個体です。この観察園は、カエデをとおして埼玉の自然の多様性を学ぶことができる屋外展示に位置づけています。



完成直後のカエデの森（平成24年3月）